

仁淀支所管内より



彼女のはなちゃん

ミカンを手土産に、 彼女に会いに行きます♡

武蔵くん(オス・柴・8歳)
飼い主：大石 邦廣さん

チャイムには遠吠えし、車が通ったら吠えて知らせる大石家の番犬、武蔵くん。一見、硬派な武蔵くんですが実は人が大好きで「さわって♪ さわって♪」と背中を向けてちょこんと座ります。秋葉祭りが近づくと、練習で訪れる子どもたちにも大人気です！

ご近所に住む彼女・中越はなちゃん(雑種・6歳)に会いに行くときは、ミカンを手土産に会いに行きます♡ 大石家と中越家ともども公認の仲。これからも楽しい時間を過ごしてね！

仁淀川
地区

から こんいちには 今月の○○ 気になる人

土佐市支所管内より



花を気軽に飾ってみてほしい

望岡 望さん(40歳)
裕美さん(41歳)

「花を気軽に飾ってみてほしい」と話すのは、土佐市高石地区でユリを栽培する望岡さんご夫婦。裕美さんの父、森本仁志さんの跡を継ぐ予定で、就農して約7年で、現在は出荷および販売を担当しています。今後2～3年のうちに品種の構成なども任される予定です。

LA系を中心に42アールで約30品種、年間45万本以上を出荷しています。「咲いたとき、本当にきれいなんです」と力強く話す望岡さん。「生花の魅力伝えていきたいです」と笑顔を見せられました。

本当に農業はキライですか？

氏原 美登さん(66歳)

「土地がもったいないし、草を生やしておくのは嫌だから」という理由で、キライな農業を始めた氏原さん。定年退職後、「あぐりミドルスクール」で道具の使い方から学び、早5年。今では直販所「はちぎんの店」でブロッコリーやジャガイモなどを出荷しています。「見栄っ張りだし負けず嫌い。上手にできたら自慢したい」と、「キライ」という言葉とは裏腹に、農業にどっぷりはまっているように見えますよ！

斗賀野支所管内より



佐川支所管内より



ソックス持ってくるのは お安い御用！

銀くん(オス・豆柴・4歳)
飼い主：西森 利信さん
加栄さん

銀くんは利信さんが大好き！「ソックス取ってきて〜」と頼むと、籠からちゃ〜んと持ってきてくれます♪

お手もお座りもばっちりできる銀くんだけど、気が乗らない時や都合の悪いことは聞こえないふりをしちゃう、お利口さんです(笑)

くりくりのつぶらな瞳がかわいい銀くんは鹿児島県のご出身。利信さんと加栄さんが車で迎えに行きました！寝るときは2人と1匹、川の字で仲良くおねんねです。

できごととピックアップ

地区内のイベントや、地域農家の取り組みなどを紹介します！



ピーマンの収穫体験をする川西副事業推進部長

1 営農 農福連携に向けて ピーマン収穫体験

とさし営農経済センターや県、市、福祉事務所らが組織する土佐市労働者確保プロジェクトは、2021年3月から農福連携事業を進めています。

昨年12月10日には、農福連携を通じた雇用拡大などに取り組む「Act.t.」（東京都中央区）の職員を招きピーマンの収穫体験を行いました。

同社は10月に徳島オフィスを開き、農福連携を進めています。知的障がい者を6人雇用し、露地のサツマイモやホウレンソウなどの収穫や袋詰め作業などを請け負っています。

JAの職員が、ピーマンの産地規模や栽培期間など概要を説明した後、収穫体験を実施。

徳島オフィスに在籍する川西副事業推進部長は「ハウス栽培では天候に左右されずに仕事ができる。感覚やこつを覚えるまで時間はかかると思うが、障がいのある方でも十分できる作業」と話しました。

同センターの籠尾良洋係長は「関係機関が協力し合い、障がい者の社会参加の場を作っていきたい」と意気込んでいます。



金賞を受賞した山本さんと特別優秀賞の野村組合長

2 営農 土佐岩戸米営農組合 米・食味コンW受賞

土佐市の土佐岩戸米営農組合は「第23回米・食味分析鑑定コンクール国際大会 早場米部門」で山本晴記さんが金賞、野村義範さんが特別優秀賞と、ダブル受賞を果たしました。

総出品数が5000を超え、コンクールで、同組合は2018年の16回大会から毎年出品し、6年間で延べ9人が入賞しています。山本さんは3度目で2年連続の金賞受賞となりました。

入賞の理由として、野村組合長は「定期的な勉強会、土壌分析による適正な土づくりと肥培管理など、組合員全体でレベルアップするよう意識している」と話します。刈取り時期の長雨で品質や味への影響が懸念されていましたが、受賞したことに「苦勞が実を結んでうれしい」と笑顔を見せました。

同組合は良質な米産地を守ることを目的に16年に発足。現在は23人が所属しています。食育活動にも熱心で「土佐岩戸米」は土佐市内の学校給食に利用され、組合員が毎年、食育授業を行っています。

3 営農

「白芽芋」出荷、終盤！



「白芽芋」を選別する部員ら

伊野支所の「白芽芋部会」はサトイモの「白芽芋」の出荷が終盤を迎えました。いの町枝川地区では45年ほど前から、栽培が盛んに行われています。「白芽芋」は1個100g前後で直径10cmほど。生産者は出荷する直前に収穫。表面を手で整える「むしり」作業を行ってからJAの出荷場で選別・箱詰めされます。

主に岡山県や広島県で流通しています。丸くて肌がきれいな芋は高値で取引され、高級芋などで使われます。

4 営農

旬、真っ只中 シュガートマト



「シュガートマト」を収穫する正岡さん

日高支所トマト選果場で、ブランドトマト「シュガートマト」の出荷が続いています。光センサーを備えた設備で糖度別に選果し、主に関東へ出荷します。

今時は定植時に曇天が続き、12月の収量は少なめでしたが、糖度は十分。収量も年明けから増加しています。

同支所ハウス園芸部会では、29戸が約10・5haでトマト栽培に励んでいます。同部会の正岡知也部会長は「おいしいトマトを多くの人に食べてもらいたい」と話しました。

5 営農

イチゴ生産者 情報交換



熱心に意見交換をする参加者（左から西本さん、横畠さん）

仁淀川地区はイチゴの栽培が盛んで、部会の枠組みを超えて情報交換をしようと、産地交流に取り組んでいます。

1月28日には「ゆめのか」の高設栽培をしている横畠宏之さん（佐川町）が西本和生さん（土佐市）のハウスを視察しました。

横畠さんは「今日の視察をきっかけに、今後も互いに交流を深めたい」と話しました。

同地区のイチゴ栽培に関して、JA合併以降、不定期に農家や営農指導員らが現地視察をし、交流を深めています。

6 営農

土佐文旦出荷！ 例年に比べ収量減



出荷作業に勤しむ作業員

戸波集出荷場では2月に「土佐文旦」の出荷がピークを迎えました。日量で約10トンを選果し、2月下旬までに200トンの出荷を行いました。

戸波支所経済課の広瀬修久さんは「昨年1・2月の寒波や授粉時期の降雨の影響を受け、出荷量は例年の3割程度。一方、食味は例年以上に良い出来」と太鼓判を押しします。

同出荷場では光センサー選果機で、糖酸度や果形を選別し、味にはらつきのない品質の良い土佐文旦を全国に販売しています。

えいのう



あなたもチャレンジ! 家庭菜園

ルバーブ 香気と酸味のあるジャムを楽しむ

園芸研究家 ● 成松次郎

ルバーブは特有の香気と酸味の
ある葉柄を利用する永年性の野菜
です。たくて多汁質の葉柄は、
ジャム、パイなどに利用しますが、
葉身にはシュウ酸が多く含まれるの
で食用にできません。和名は食用
大黄といい、漢方薬のダイオウと
同属の植物で、原産地はロシア南
東部からシベリア南部とされ、冷
涼な気候を好みます。

「品種」世界的には数十品種ほど
栽培されていますが、「ビクトリ
ア」(藤田種子など)は草勢が
強く収量の多い品種です。

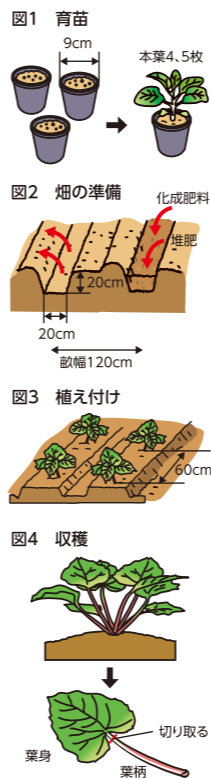
「育苗」幼苗期の除草作業などを
考慮して育苗するとよく、ハウ
スを利用して、2、3月に3寸ポツ
トに4、5粒の種をまきます。
その後間引きをして1本立ちに
し、5月ごろまでに本葉4、5
枚の苗に仕上げます(図1)。
「畑の準備」植え付け2週間前に1
平方m当たり苦土石灰200gを
全面にまいて、よく耕しておき
ます。植え付け溝は畝幅120

cmとし、幅20cm、深さ20cmに掘り
下げます。元肥は溝1m当たり
堆肥を2kg、化成肥料(NPK
各成分10%)100g程度を施
し、土を戻します(図2)。

「植え付け・追肥」大型野菜のた
め、株間を60cm程度に取り、苗
を植え付けます(図3)。植え
付けの年は、夏の初めと終わり
に、溝を切って畝1m当たり化成
肥料50gを与えます。翌年から
は、冬(萌芽(ぼうが)前)に
畝1m当たり堆肥1kgと化成肥
料100gを施用し、その後は
初年度と同様に追肥をします。
「収穫」初年度は収穫しないで、
2年目から収穫を始めます。
収穫法は30〜50cmに伸びた葉
柄を基部より手でかき取り、

葉身は切り捨てます(図4)。
一度に採葉し過ぎないように、
次回は1、2週間後に収穫しま
す。収穫期は5、6月で、収
穫期間は2カ月程度にとどめ
ておきます。

「その他の管理」越冬した株が早
春に萌芽し、その後、花茎の伸
長(とう立ち)が始まります
が、開花・結実するとその後の
生育が悪いため、花茎は早めに
手で除去します。敷きわらは、
泥はねを防ぎ、盛夏の干ばつ対
策になります。なお、5、6年
たつと草勢が衰えてくるので、
植え替えをします。萌芽前の
冬に掘り上げ、切り離す株に芽
が付くように縦に切断し、株分
けをします。



牛乳を消費しよう! 長芋のスープ

＜材料＞
・長芋…100g ・ネギ(白ネギ)…1/2本 ・牛乳…200ml
・塩コショウ…少々 ・エコープこめ油…適量

＜スープ＞
・チキンコンソメ…1個 ・水…600cc

＜作り方＞
① 長芋は角切りにし、酢水(分量外)にサッと漬け、浮き身用の分を少し分けて残しておく。
② ねぎは小口切りにし、浮き身用に青い部分を少し分けて残しておく。
③ 鍋にエコープこめ油を熱し、長芋・ねぎを炒めてスープを入れて煮る。
④ ②がやわらかくなれば牛乳を入れてミキサーにかけ、ひと煮立ちさせ、塩こしょうで味付けする。
⑤ 器に③を注ぎ、残しておいた長芋とねぎを浮かす。

エコープこめ油

ためてみて!! イチオシ商品

Aコープ・直販店で取扱中!
(店舗によっては取り扱いがない場合も
ございます。ご了承ください)

鳥獣被害対策専門員からのお知らせ

ワイヤーメッシュ柵(WM柵)の設置について

先月号では電気柵の設置方法に触れてみましたが、今回はWM柵についてお話をさせていただきます。

昨今の鉄金属や原油の高騰、また設置に労力を要することからWM柵は敬遠されがちですが、設置方法を習得すれば農作物をイノシシ被害等から守ることが出来ます。

そこでWM柵を設置するために必要な道具を紹介いたします。まず支柱を打ち込むランマー、柵と支柱を固定結線するハッカー、柵を設置形状に応じて切断するクリッパーが主なものです。

高齢者や女性でも難なく柵が設置できるような管内の製作所のご厚意で軽量の工具を作成しましたので、ご希望される方に貸し出しも可能です。ご遠慮なくお申し付けください。



鳥獣被害対策専門員 上地 和久

鳥獣被害についてのお問い合わせ

春野・土佐市地区
鳥獣被害対策専門員
上地 和久
携帯電話: 0903-1890673

ノブメス地区
鳥獣被害対策専門員
真辺 忠志
電話: 0899-2217823
(ノブメス営農経済センター)



鳥獣被害対策専門員 真辺 忠志

イチゴの病害虫対策 「ヒラズバナアザミウマ」



営農指導員 上野 駿

年内に防除ができていない場合、越冬成虫の発生拡大が懸念されます。3月に入るとハウス外からの飛来も増えますので初期防除などしっかり対策を行いましょう。

【生態・生活史】
25℃で卵期間3日、孵化から羽化まで7日、産卵前期間1日、雌の生存期間は約52日、平均産卵数は約500個と生育は旺盛。

【発生しやすい条件】
高温、乾燥すると多く発育する。本種は高温・乾燥を好むので、いちごでは普通4月以降に寄生が急増する。

【対策のポイント】
花への寄生を早期に見つけ、早めに対策を立てる。花や果実に被害が出てからでは手遅れなので、早くアザミウマの寄生を見し速やかに防除する。そのため、3月〜4月になったら花や蕾をループで良く観察し、成虫や幼虫の寄生を見つけて薬剤を散布する。発生が多い場合は数回の薬剤散布が必要である。



↑成虫:暖かくなるとイチゴの花に集まり、加害する。 ↑初期の被害果:果実が淡い茶褐色になる。

※防除薬剤については、地域により効果が異なる場合がありますので、詳しくはお近くのJAの営農指導員・または農業振興センターへお問い合わせください。

※JA版農業電子図書館より一部記事抜粋

【その他】

・青色粘着板を設置し、増殖を抑制するとともに、粘着版に付くタイムリングを観察することで初期発生を察知することが出来る。
・防除時IGR剤を混用することで幼虫の脱皮阻害や産下卵ふ化抑制等により長期にわたる効果が期待できる。

皆さんからのご意見、ご感想、つぶやき、川柳、イラストなど、お便りを心待ちにしています！

みんなのひろば

「地域で輝く！女性農業者のチカラ」の見出しをみてふと我に返りました。米、ゼンマイ、じゃが芋、季節ごころにある野菜を作っていることに、作れる体力に感謝しながら育てたものが収穫できた時の喜びを感じながら、食するのも幸せです。頑張つて!!
 (仁淀支所管内・Tさん71歳)

「地域で輝く！女性農業者のチカラ」女性農業者が多いですね。さすが高知県。はちきん女性が活躍できる地域があちこちにあり元気をもらえます。
 (池川支所管内・Tさん47歳)

将来、畜産の仕事につきたいという孫がいます。川井百合香さんと孫がだぶつて見えエールを送りたくなりました。
 (土佐支所管内・Iさん69歳)

「地域で輝く！女性農業者のチカラ」春から老人ホームで介護福祉士として働きます。この特集を読んで、土儀は違うけど福祉と重なる部分があつて「私も頑張ろう！」と思えました。将来(宝くじが当たつたら)自然の中で自給自足をしながら、お年寄りに寄り添う施設をしたいという夢があります。その時は特集してください!!(笑)
 (日高支所管内・Nさん31歳)

▼笑顔がまぶしい女性農業者が、紙面を飾った新年号でした。部会の集まりなどでは男性が多いですが、直販所の出荷者などのお名前を見ると女性の名前もたくさんありますよね！部会にも女性がたくさん出てきてくれたらいいなあと思えました。畜産の仕事につきたいというお孫さんがいるIさん。ぜひぜひ応援してあげてくださいね♡

「ごはん・お米への想いを自由に表現！」で、神希実さんの気づきに感心しました。噛む力が弱かったり、飲み込むことがむずかしい老人にも、お米なら調理方法でおいしく食べることができるとなると、お米の素晴らしいところに気づいてきて、立派だと思いました。
 (土佐支所管内・Kさん73歳)

お米作りの大変さやお米のおいしさなどが伝わってくる子供たちの作文と絵がすばらしいと思いました。
 (斗賀野支所管内・Kさん54歳)

とてもほほえましく読ませてもらいました。私の子ども時代には全部手刈りで大変でしたが、天日干しにしたお米はとっても美味でした。
 (佐川支所管内・Oさん62歳)

▼お米の良さを再認識できた作文でした。オリンピックの選手も、102歳のひばあちゃんも大好きなお米。お正月にご馳走(お寿司)を食べて疲れた胃に優しい七草がゆもお米です。そういう視線で見ると、お米の活躍つてすごいですね！
 (うちんくの台所)に掲載の「里芋のチーズと生ハムコロッケ」を作ってみました！なかなか美味しかったです！レシピ楽しみにしています。
 (戸波支所管内・Aさん60歳)

里芋がきらいな子どもたちも美味しいと言つて食べてくれました。
 (土佐支所管内・Iさん72歳)

米粉のグラタン美味しそうですね。寒いときにはピツタリ最高！具たくさんで是非作ってみます。
 (斗賀野支所管内・Tさん59歳)

「里芋のチーズと生ハムコロッケ」美味しそうですね。最近ほめんどくさがりにますます拍車がかかって揚げ物なんかする気もおきなくい。でも食べた〜い。
 (斗賀野支所管内・Iさん58歳)

▼美味しそうなグラタンとコロッケでしたね。そのまま紙面から摘んで食べたくなっちゃいました。斗賀野支所管内のIさん、だれかに作ってもらって食べたいですね(^^)
 今年の年賀状で一番驚いたのは、30代の女性がイノシシ対策のため狩猟免許をとつたと書かれていたことです。彼女は過疎の集落で一人暮らし。必要に迫られたとはいえ、心配です。
 (池川支所管内・Nさん65歳)

▼近年は女性ハンター、通称「狩りガール」が増えてきています。きつかけはいろいろとあると思いますが、近年は「ジビエ」料理を食べる機会も増え、鳥獣被害の実態を知るきっかけになっているんじゃないかなと私は思います！

おたよりイラストコーナー



(伊野支所管内・Kさん71歳) (吾北支所管内・Sさん38歳) (吾北支所管内・Tさん62歳) (仁淀支所管内・Nさん63歳)